

古文ドリル：敬語の訳し方 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：敬語の訳し方ルール

古文の敬語は **現代語訳に正確に反映** させる必要がある。

敬語の種類	訳の形
尊敬語	お～になる／～なさる
謙譲語	お～する／～申し上げる／～いたす
丁寧語	～です／～ます／～ございます

訳し方の鉄則

尊敬語（動作主への敬意）

- 給ふ（四段） → ～なさる／お～になる
- おはす／おはします → いらっしゃる
- 仰す／のたまふ → おっしゃる
- 召す → お召しになる／お呼びになる
- 御覧ず → ご覧になる
- 大殿籠る → お休みになる
- 思す／思しめす → お思いになる
- きこしめす → お聞きになる／召し上がる
- あそばす → なさる（高貴な人の動作）
- 遣はす → 派遣なさる

謙譲語（動作の受け手への敬意）

- 奉る → 差し上げる
- 参る → 参上する／差し上げる
- 申す／聞こゆ → 申し上げる
- 仕うまつる／つかうまつる → お仕えする

- ・ 賜ふ（下二段） → いただく
- ・ 承る → お受けする／伺う
- ・ まかる／まかづ → 退出する／参上する

丁寧語（聞き手・読み手への敬意）

- ・ 侍り → ～ございます／～です／～ます
- ・ 候ふ／さぶらふ → ～ございます／～です／～ます

二重敬語（最高敬語）

形	訳
せたまふ／させたまふ	お～になる／～なさる
しめたまふ	お～なさる
仰せらる	おっしゃる
思しめす	お思いになる

→ 二重敬語は **天皇・皇族・摂関級** への最高敬意。

動詞別・尊敬/謙譲両用注意

動詞	尊敬	謙譲
奉る	召し上がる／お召しになる	差し上げる
参る	召し上がる（食事）	参上する／差し上げる
賜ふ	四段＝お与えになる（尊敬）	下二段＝いただく（謙譲）
給ふ	四段＝～なさる（尊敬）	下二段＝～いたす（謙譲・会話文のみ）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
 こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 敬語動詞の直訳パターンを丸暗記（語数限定なので最強）

入試で出るのは決まった敬語動詞だけ。形と訳の1対1対応を機械的に当てはめる：- 「のたまふ／仰す」→ おっしゃる - 「おはす／おはします」→ いらっしゃる - 「思ふ／思しめす」→ お思いになる - 「御覧ず」→ ご覧になる - 「奉る」→ 差し上げる（謙譲）／お召しになる（尊敬） - 「申す／聞こゆ」→ 申し上げる - 「侍り／候ふ」→ ～です・～ます

コツ② 二重敬語は「天皇・中宮」とほぼ確定

「せたまふ／させたまふ／しめたまふ」を見たら：- **動作主は天皇・皇族・摂関級** で固定 - 訳は「お～になる／～なさる」（ただの尊敬と同じ訳でOK、最高敬語のニュアンスは答案に書かなくてよい）

コツ③ 「給ふ」の活用で訳が分岐（最頻出）

- ・ 四段の「給ふ」→ 尊敬「～なさる」
- ・ 下二段の「給ふ」→ 謙譲「～いたす／～申し上げる」（会話・手紙中で「思ふ・見る・聞く・知る」に付く時のみ）

例：「見給ふる」（下二段連体形）→ 「拝見いたす」

コツ④ 「奉る」「参る」は食事・服装関連 だけ尊敬

- ・ 「酒を奉る」「衣を奉る」→ 「召し上がる／お召しになる」（尊敬）
- ・ 「参る」＋食事 → 「召し上がる」（尊敬）
- ・ それ以外の「奉る／参る」→ 謙譲（差し上げる／参上する）

試験本番でのチェック順序

1. 敬語動詞を特定し、**暗記した訳語** を当てはめる
 2. 「給ふ」なら **活用形** で四段（尊敬）／下二段（謙譲）を判別
 3. 「奉る・参る」なら **動作の内容** で尊敬／謙譲を判別
 4. 「せたまふ」系を見たら最高敬語、訳は「～なさる」で統一
 5. 補助動詞の場合は「お～になる／～申し上げる／～です」の形で接続
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・ 補助動詞の「給ふ」を「与える」と訳す → 補助動詞は「～なさる」
- ・ 「申す」を「言う」と訳す → 必ず「申し上げる」（謙譲を反映）
- ・ 「侍り」を「いる」と訳す → 補助なら「～です・～ます」、本動詞でも「お仕えする／ございます」
- ・ 二重敬語を訳に反映できない → 「お～になる」「～なさる」と尊敬の形を明示

採点表

- ・ 基礎 (Q1～Q20) : /20
- ・ 標準 (Q21～Q50) : /30
- ・ 応用 (Q51～Q80) : /30
- ・ 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- ・ 合計 : /100

【第1部】 基礎編 (Q1～Q20)

主要敬語の基本訳。

Q1. 現代語訳せよ。

帝、御文書か**せたまふ**。

Q2. 現代語訳せよ。

御文を**奉る**。

Q3. 現代語訳せよ。

「これは尊し」と**申す**。

Q4. 現代語訳せよ。

我れも参り**侍り**。

Q5. 現代語訳せよ。

中宮、御文を**御覧ず**。

Q6. 現代語訳せよ。

御所に参る。

Q7. 現代語訳せよ。

法皇、御幸おはす。

Q8. 現代語訳せよ。

君に仕うまつる。

Q9. 現代語訳せよ。

上、仰せらる。

Q10. 現代語訳せよ。

大納言、御前に候ふ。

Q11. 現代語訳せよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

Q12. 現代語訳せよ。

我れ、御前にまかる。

Q13. 現代語訳せよ。

院、大殿籠る。

Q14. 現代語訳せよ。

御物を賜ふ（下二段）。

Q15. 現代語訳せよ。

「いま参り候ふ」と申す。

Q16. 現代語訳せよ。

中宮、御文書かせたまふを、人にも見せさせたまふ。

Q17. 現代語訳せよ。

帝、御覧ぜさせたまふ。

Q18. 現代語訳せよ。

御簾を上げさせたまへ。

Q19. 現代語訳せよ。

御供仕うまつり侍り。

Q20. 現代語訳せよ。

法皇、御使ひを遣はす。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

両用語・複合敬語・特殊敬語。

Q21. 現代語訳せよ。

帝、御酒を参る。

Q22. 現代語訳せよ。

上、御衣を奉る。

Q23. 現代語訳せよ。

中將、御琴をいと美しく弾き給ふ。

Q24. 現代語訳せよ。(会話文)

「我れもさ思ひたまふる」

Q25. 現代語訳せよ。

殿、御文を賜ふ（四段）。

Q26. 現代語訳せよ。

我れ、御文を賜はり。

Q27. 現代語訳せよ。

帝、御覧じて仰せらる。

Q28. 現代語訳せよ。

大臣、御位を奉らんとす。

Q29. 現代語訳せよ。

「いまやまかり出で侍りなむ」

Q30. 現代語訳せよ。

御前にさぶらふ人々、皆寝入りぬ。

Q31. 現代語訳せよ。

中宮、御物語をいと愛でさせたまふ。

Q32. 現代語訳せよ。

君、御覧ぜらるらむ。

Q33. 現代語訳せよ。

「承り侍りぬ」と申す。

Q34. 現代語訳せよ。

院、御僧の事聞こしめしけり。

Q35. 現代語訳せよ。

我れ、御前に御文を聞こえつ。

Q36. 現代語訳せよ。

「これ、御覧じ候へ」

Q37. 現代語訳せよ。

帝、御もてあそびの御物かしこく召したり。

Q38. 現代語訳せよ。

「殿は今、御寝なる」

Q39. 現代語訳せよ。

上、御遊びをあそばす。

Q40. 現代語訳せよ。

中宮、御髪を梳らせたまふ。

Q41. 現代語訳せよ。

「君のおほせのこと、承りて侍り」

Q42. 現代語訳せよ。

帝、御物の怪に悩みたまふを、皇后いと心苦しと思しめす。

Q43. 現代語訳せよ。

御使ひ、御物を奉りて、退き出づ。

Q44. 現代語訳せよ。(会話文)

「我れ、君のために仕うまつり侍らばや」

Q45. 現代語訳せよ。

大納言、いとたけ高くおはす。

Q46. 現代語訳せよ。

上、御覧じつけて、仰せらる。

Q47. 現代語訳せよ。

「我が宿にまかりたりしに、人もなし」

Q48. 現代語訳せよ。

中宮、御湯召したり。

Q49. 現代語訳せよ。

院、御物を賜はせたまふ。

Q50. 現代語訳せよ。

「畏まり侍り」と申す。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

複合・係り結び・物語表現。

Q51. 現代語訳せよ。

帝、御琴をあそばすを、中宮、御簾の内にて聞こしめす。

Q52. 現代語訳せよ。

「承り侍りて、いと心嬉しく思ひたまふる」

Q53. 現代語訳せよ。

御使ひ、まかりまうでて、御文を奉る。

Q54. 現代語訳せよ。

上、いと畏き御心にて、思しめしめぐらす。

Q55. 現代語訳せよ。

「御覧ぜさせたまへ」

Q56. 現代語訳せよ。

大臣、御位を奉らせたまふ。

Q57. 現代語訳せよ。

「我れも参り候はむ」

Q58. 現代語訳せよ。

帝、御物思はしげにおはしましける。

Q59. 現代語訳せよ。

中宮、ものもおほせられず。

Q60. 現代語訳せよ。

御使ひ、まかり帰りぬ。

Q61. 現代語訳せよ。

「君は、いま御寝にて侍る」

Q62. 現代語訳せよ。

帝、御琴を召して、御前にてあそばす。

Q63. 現代語訳せよ。

上、御心地いと苦しく思しめすを、かしこく慰め奉る。

Q64. 現代語訳せよ。

「御覧じつけて、笑ませたまふ」

Q65. 現代語訳せよ。(会話文)

「承り侍れば、いとかたじけなく思ひたまふる」

Q66. 現代語訳せよ。

院、御文を遣はす。

Q67. 現代語訳せよ。

大納言、御前にさぶらひて、御物語申し上ぐる。

Q68. 現代語訳せよ。

「いとかしこき御方なれば、畏まり侍る」

Q69. 現代語訳せよ。

中宮、御文を御覧じて、いみじく愛でたまふ。

Q70. 現代語訳せよ。

「もうで来つ。仕うまつるべきこと侍らば」

Q71. 現代語訳せよ。

上、御物の怪にて、苦しめたまふを、皇后夜昼御祈祷せさせたまふ。

Q72. 現代語訳せよ。

「御覧ぜさせ奉らばや」

Q73. 現代語訳せよ。

帝、かしこく御心を動かしたまふ。

Q74. 現代語訳せよ。

「御物を賜はり侍りぬ」

Q75. 現代語訳せよ。

御乳母、若君を抱き奉りて、まかり出づ。

Q76. 現代語訳せよ。

中宮、御簾のうちにて、ものを仰せらるるを、え聞こえず。

Q77. 現代語訳せよ。

「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

Q78. 現代語訳せよ。

帝、御湯を召して、入らせたまふ。

Q79. 現代語訳せよ。

院、御衣を奉りて、御所より出でさせたまふ。

Q80. 現代語訳せよ。

「まかり侍りて、承りたることを申し侍らむ」

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

源氏物語・枕草子など難関大頻出箇所。

Q81. 現代語訳せよ。（源氏物語・桐壺）

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に…

Q82. 現代語訳せよ。（源氏物語・桐壺）

いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

Q83. 現代語訳せよ。（源氏物語・桐壺）

はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。

Q84. 現代語訳せよ。（枕草子・第一段）

夏は夜。月の頃はさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛び違ひたる、また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

Q85. 現代語訳せよ。（枕草子・香炉峰の雪）

「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

Q86. 現代語訳せよ。（源氏物語・若紫）

「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。

Q87. 現代語訳せよ。(伊勢物語・東下り)

「これなむ都鳥」と言ふを聞きて、…と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

Q88. 現代語訳せよ。(土佐日記)

京に思ふ人なきにしもあらず。さるは、便りごとに物も絶えず得しかど。

Q89. 現代語訳せよ。(大鏡)

御年四十二にて隠れさせたまひにしかば、御諡を村上の御門と申す。

Q90. 現代語訳せよ。(大鏡)

入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

Q91. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、「いとまばゆき人の御おぼえなり。唐土にも、かかる事の起こりにこそ、世も乱れあしかりけれ」と、…もてなやみぐさになりて、楊貴妃のためしも引き出でつべくなりゆく。

Q92. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして安からず。

Q93. 現代語訳せよ。(枕草子・第百四十六段)

「御覧じたれ」とて、御ふみを奉る。

Q94. 現代語訳せよ。(大鏡・道長)

太政大臣道長、御年六十二にておはしましけるが、いみじく盛りに栄えたまひけり。

Q95. 現代語訳せよ。(源氏物語・夕顔)

「夕顔と申し侍る人を、申したり」

Q96. 現代語訳せよ。(源氏物語・夕顔)

「心あてにそれかとぞ見る白露の光添へたる夕顔の花」とのみ申したりければ、…

Q97. 現代語訳せよ。(徒然草・第五十二段)

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心憂く覚えて、ある時、思ひ立ちて、ただひとり、徒歩より詣でけり。

Q98. 現代語訳せよ。(更級日記)

あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかは怪しかりけむを、いかに思ひはじめけることにか、世の中に物語といふもののあなるを、いかで見ばやと思ひつつ、…

Q99. 現代語訳せよ。(平家物語・敦盛最期)

「あつらひ奉らむ」と申しければ、…熊谷、「あはれ、弓矢取る身ほど口惜しかりける事はなし。…」とて、ふたたび取つて返し、…情けなき事は、よろづにつけて心苦し。

採点振り返り

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
 - 標準 (Q21～Q50) : /30
 - 応用 (Q51～Q80) : /30
 - 入試レベル (Q81～Q100) : /20
 - **合計 : /100**
-

あとがき

敬語の訳し方の核心 : - **尊敬** : お～になる／～なさる (動作主への敬意) - **謙譲** : お～する／～申し上げる (受け手への敬意) - **丁寧** : ～です／～ます／～ございます (聞き手への敬意)

二重敬語は最高位の敬意。両用語 (奉る・参る・賜ふ・給ふ) の文脈判別が難関。

古文現代語訳の **絶対必須スキル**。

著作権 : 個別指導塾フィット / 中本裕太
